

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公開番号】特開 2004-231424 (P2004-231424A)
 【公開日】平成 16 年 8 月 19 日 (2004.8.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-032
 【出願番号】特願 2003-18316 (P2003-18316)
 【国際特許分類第 7 版】

C 0 4 B 2/12

F 2 7 B 5/02

F 2 7 B 5/18

F 2 7 B 17/00

F 2 7 D 9/00

F 2 7 D 17/00

【F I】

C 0 4 B 2/12

F 2 7 B 5/02

F 2 7 B 5/18

F 2 7 B 17/00 D

F 2 7 D 9/00

F 2 7 D 17/00 1 0 1 G

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 5 月 5 日 (2004.5.5)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】請求項 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【請求項 1】

本発明は、垂直に配備された耐火物製の伝熱管 1 2 2 に充填された石灰石を移動させながら、燃焼炉 2 0 から導かれた 1 2 0 0 ~ 1 5 0 0 の高温ガスにより間接的に石灰石 (CaCO_3) を生石灰 (CaO) と炭酸ガス (CO_2) に焼成分解する焼成帯 1 2 0 と、生成した炭酸ガスを循環使用して高温生石灰を冷却する冷却帯 1 3 0 と、生石灰の冷却により高温となった循環炭酸ガスと焼成帯で生成した高温炭酸ガスにより石灰石を予熱する予熱帯 1 1 0 を備えていることを特徴とする間接加熱式石灰石焼成炉。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】請求項 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【請求項 3】

前記焼成帯 1 2 0 で生成した炭酸ガスと冷却帯 1 3 0 より導入された炭酸ガスを予熱帯 1 1 0 上部より吸引し、炭酸ガス冷却器 1 5 1 により常温近くまで冷却して、生石灰を冷却するに十分な量を冷却帯 1 3 0 へ供給する炭酸ガス循環ファン 1 5 2 を具備した請求項 1 記載の間接加熱式石灰石焼成炉。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

図 2 は、間接加熱式石灰炉 1 0 0 の詳細図である。間接加熱式石灰炉 1 0 0 は予熱帯 1 1 0 と焼成帯 1 2 0 と冷却帯 1 3 0 と、焼成帯バイパスダクト 1 4 0 と、炉内で発生した炭酸ガスを循環するための炭酸ガス循環装置 1 5 0 で構成され、焼成帯 1 2 0 には内張り煉瓦 1 6 0 が施工されている。